

<代表値>

男女：0.12 時間/日（夏）

男女：0.18 時間/日（冬）

<代表値のもととなる資料>

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）では、1999年3月にアンケートによる入浴の実態調査を行っている。調査対象者は、年齢、家族構成、性別によって作為抽出された1,456名である。主に、夏と冬における入浴時間、入浴スタイル（シャワーのみかなど）、入浴方法などが男女・季節別に報告されている。入浴は、「浴槽入浴」と「シャワー入浴」に分けられ、それぞれの入浴に関する所要時間が記されている。入浴所要時間は、在室時間、シャワーを出している時間、蛇口の水を出している時間、浴槽に浸る時間（浴槽入浴のみ）に分類集計され、季節別・男女別の平均値が示されている。また、入浴に関する意識調査も行われている。全体での平均浴槽に浸かる時間を男女別に示すと、夏の平均浴槽に浸かる時間は男性7分、女性7分であり、男女差は見られない。冬の平均浴槽に浸かる時間は男性11分、女性12分である。浴槽に浸かる時間は男女間の差より、季節間の差の方が大きいことがわかる。

代表値には、季節別の浴槽に浸かる時間（男女混合）の平均値（夏：7分、冬：11分）を時間単位に換算したものをを用いた。

平均浴槽に浸かる時間（分）

	夏	冬
男	7	11
女	7	12
全体	7	11

出典：風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）

<追加的情報>

風呂文化研究会（2000）では、1999年3月の調査に続き、夏の入浴実態に関する調査を行っており、それによると、浴槽に浸かる時間の平均は全体で7分（男性：7分、女性：8分）である。

この調査では、男女・年齢別の浴槽に浸かる時間も報告されている。男性の場合、世代別の浴槽に浸かる時間の平均値の幅は、6～8分である。それに対して女性はやや長めで、その幅は7～9分である。若い世代（特に10代）において男女間の差が見られ、高齢になるにつれ男女間の差がなくなる傾向にある。全体で見ると、若い世代の方が浴槽に浸かる時間が長いといえる。

年齢別の平均浴槽に浸かっている時間（分）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
男	7	8	8	8	6	7
女	10	10	9	7	7	7
全体	9	9	9	7	7	7

出典：風呂文化研究会（2000）

注. 数値はグラフからの読み取りによる。

### <数値の代表性>

#### ◇ 代表値の信頼性：中

1都3県を中心とした関東エリア在住者のみで調査されたものである。

#### ◇ 代表性に関する情報

##### 代表値のもととなる資料

対象者は、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為抽出された関東エリア（1都3県の居住者の割合が多い）在住の1,456人である。また、この調査は3月に行われたため、夏のデータについては、回答者の思い出しに基づいている。

##### 追加的情報

サンプル数は1,438人である。調査対象者は、関東エリア（1都3県）の在住者であり、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為的に抽出されている。

#### ◇ 入手した資料の数

上記の2資料のみであった。

### <引用文献>

#### 代表値

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999），入浴の実態と意識に関する調査報告書。

#### 追加的情報

風呂文化研究会（2000），現代人の入浴事情 2000－夏の入浴実態調査。

### <更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

### 米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

推奨値のもととなった資料は、Tsang and Klepeis(1996) : National Human Activity Pattern Survey (NHAPS)である。この調査は、米国 EPA が1992年から1994年にかけて、米国を代表するように選ばれた9,386人を対象に行ったものである。この調査では、1日の行動場所、活動、また暴露に関連する出来事（個人暴露、世帯の特徴、医療背景）が調べられている。調査対象者の約7%（649人）は、少なくとも1日に1回浴槽につかる（そのうち459人は1回/日）と回答している。行為者における浴槽に浸かる時間（bathing duration）の推奨値は、20分/回（50パーセンタイル値）となっている。